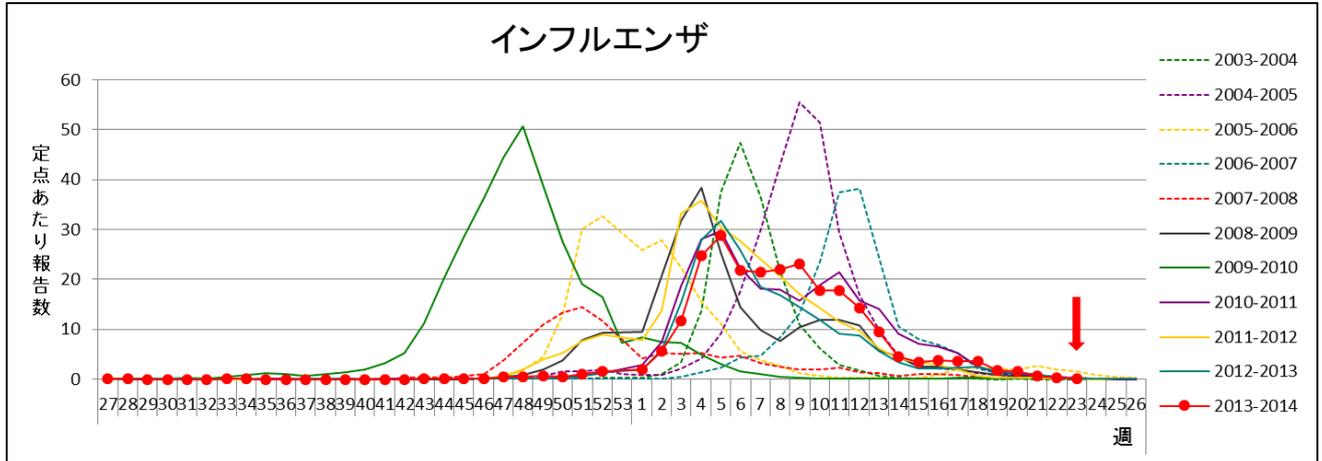


岡山県 インフルエンザ発生状況

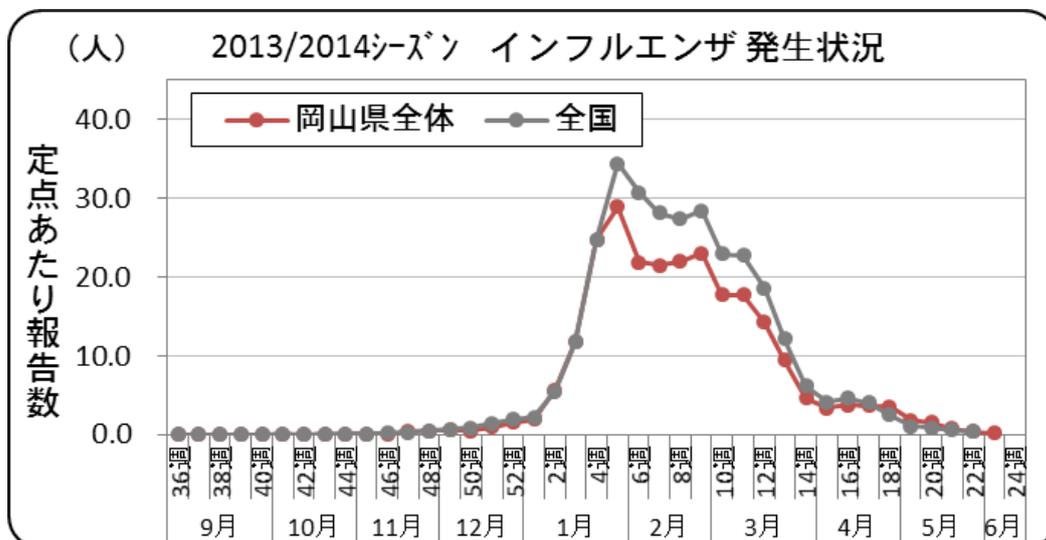
(2013/2014 年シーズン流行のまとめ)



岡山県における 2013 / 2014 年シーズン (36 週～23 週・2013/9/2～2014/6/8 まで)、県内定点医療機関 84 定点から報告されたインフルエンザの発生動向をまとめました。

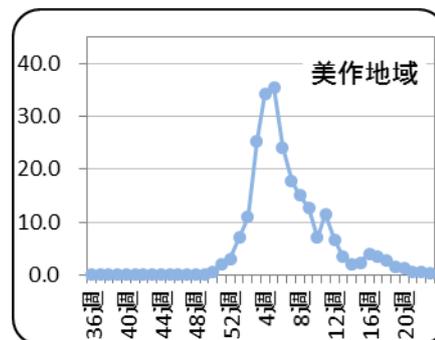
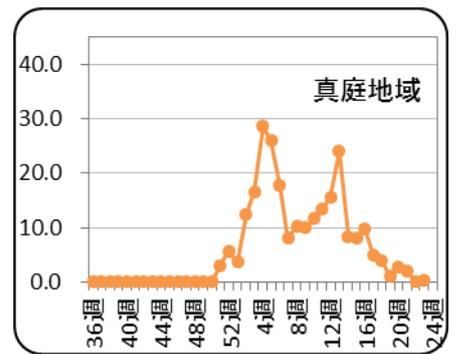
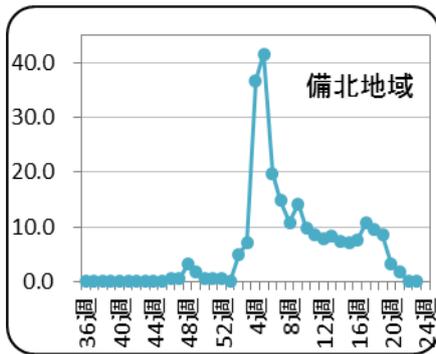
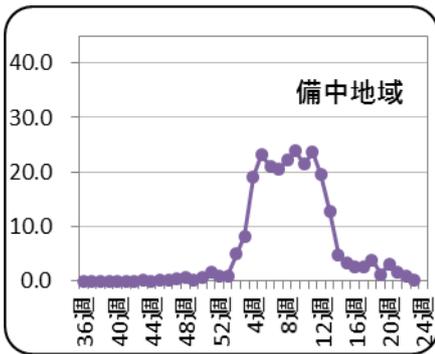
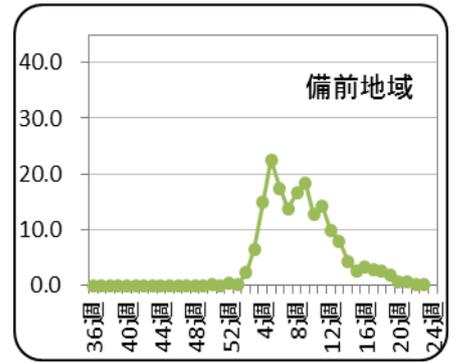
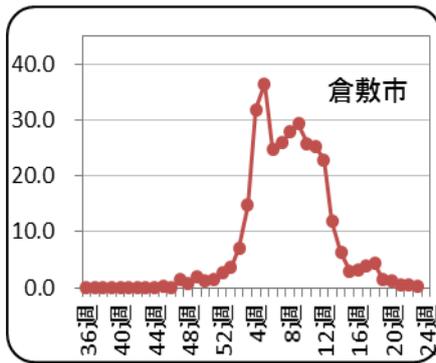
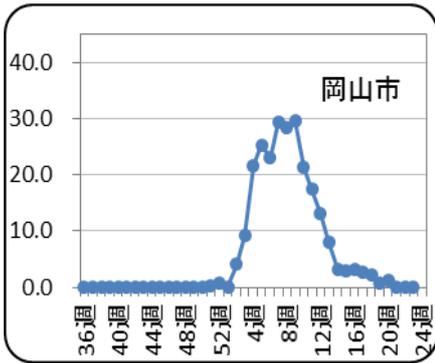
岡山県では、2013 年 第 43 週 (10/21～10/27) に今シーズン初めての患者が報告され、第 52 週 (12/23～12/29) に定点あたり報告数 1.53 人となり、流行期に入りました。以降、急速に拡大し、2014 年 第 2 週 (1/6～1/12) に定点あたり 5.66 人となり、5 人を越えたため、岡山県は 1 月 16 日「インフルエンザ注意報」を発令しました。第 5 週 (1/27～2/2) には定点あたり 28.89 人となり、今シーズンのピークを迎え、第 6 週 (2/3～2/9) に定点あたり 21.84 人まで減少しました。しかし、その後しばらくほぼ横ばいで推移し、第 10 週 (3/3～3/9) から再び徐々に減少しました。第 21 週 (5/19～5/25) 0.73 人、第 22 週 (5/26～6/1) 0.36 人と、2 週連続して定点あたり 1 人を下まわりました。そのため、岡山県に発令されていたインフルエンザ注意報は 6 月 5 日をもって解除となり、今シーズンのインフルエンザの流行は終息したと考えられます。

全国では、2013 年 第 51 週 (12/16～12/22) に定点あたり報告数が 1.39 人となり、流行期に入りました。その後、2014 年 第 5 週 (1/27～2/2) に定点あたり 34.44 人となり、流行のピークを迎えました。以降、岡山県とほぼ同様に推移し、第 21 週 (5/19～5/25) には定点あたり 0.56 人となり、沖縄県 (7.64 人) 以外の全国の保健所地域で注意報レベルを下まわりました。



1. 地域別発生状況

地域別発生状況は、2013年 第45週（11/4～11/10）頃から、倉敷市・備中地域で患者が報告され始めました。流行初期は倉敷市、真庭地域、美作地域を中心に拡大し、やがて2014年第2週（1/6～1/12）には全地域で流行開始の指標である定点あたり患者数1人を上まわり、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は増加をつづけ、岡山県のピーク時には備北地域（41.60人）、倉敷市（36.44人）、美作地域（35.50人）で、患者が多く報告されました。倉敷市、備前地域、備北地域、真庭地域、美作地域では、第4～5週（1/20～2/2）を、また岡山市、備中地域では2014年第9週（1/24～3/2）にピークに達し、以後は増減を繰り返しながら減少しました。第22週（5/26～6/1）、全ての地域で定点あたり1人以下になり、今シーズンの流行は終息したと考えられます。



※感染症発生動向調査は、岡山県を7のブロックに分けて、情報収集しています。

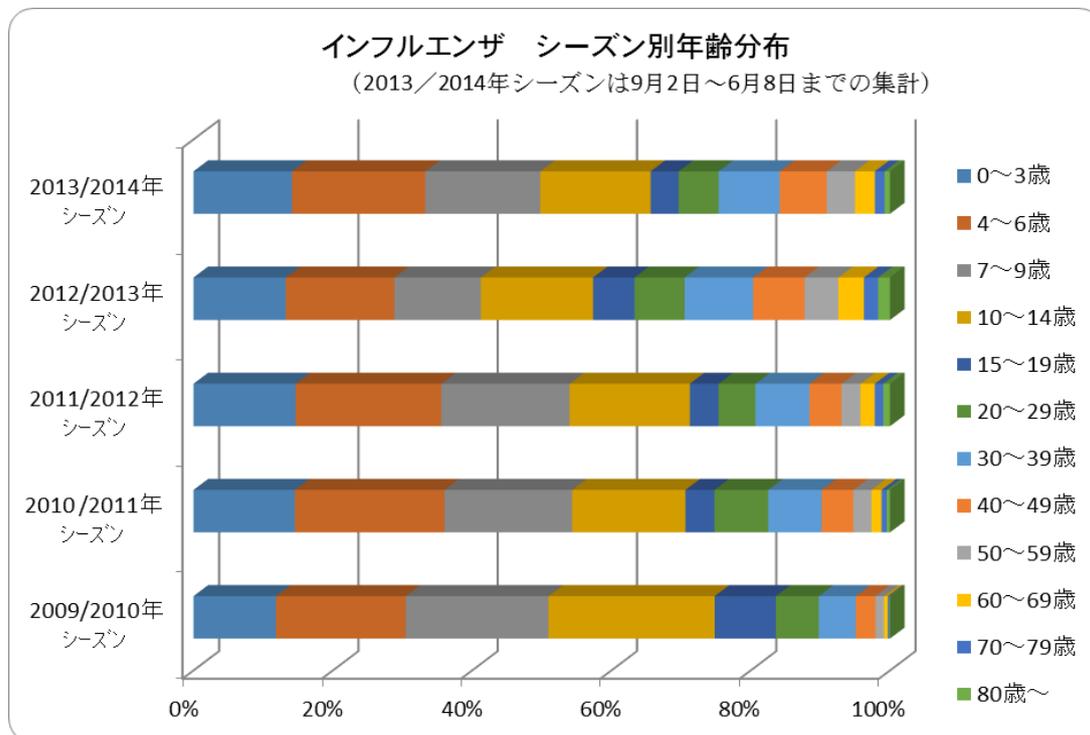
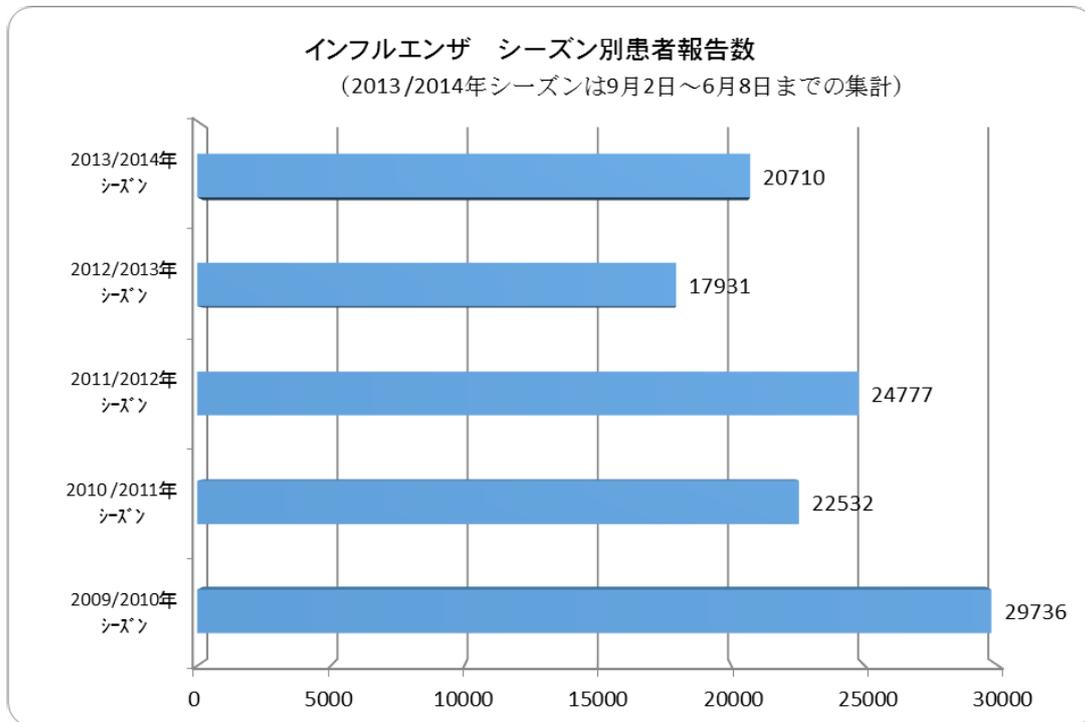


- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域 (オレンジ)
- ・備中地域 (黄)
- ・備北地域 (緑)
- ・真庭地域 (ピンク)
- ・美作地域 (青)

2. 年齢別発生状況

2013/2014年シーズン（2013年9月2日～6月8日）、県内の患者報告数は20,710人となり、過去5年間では、2番目に患者発生の少ないシーズンとなりました。

年齢分布は、4～6歳が最も多く（19.2%）、つづいて7～9歳（16.5%）、10～14歳（15.9%）の順でした。昨シーズンと比較して4～9歳の年齢層の割合が増加し、15歳以上の各年齢層の割合が減少しました。



※インフルエンザは、9月から翌年8月までを1シーズンとして集計しています。ただし、2009/2010年シーズンは新型インフルエンザの流行のため、7月から翌年6月の間を集計しています。

3. インフルエンザウイルス検出状況

2013/2014年シーズン（2013年9月2日～6月8日）における岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス122株の検出割合は、AH1pdm09型が48株（39%）と最も多く、AH3型が44株（36%）、B型が30株（25%）（B型のうち山形系統24株、ビクトリア系統6株）でした。AH1pdm09型は、2011/2012年シーズン、2012/2013年シーズンには検出されていませんでしたが、今シーズンは検出最多となりました。

今シーズン検出されたインフルエンザウイルスAH1pdm09型のうち、43株について薬剤耐性マーカー遺伝子の検査を行ったところ、1株から耐性マーカー遺伝子が検出されました。現在、その1株について確認のため、国立感染症研究所で薬剤感受性試験を行っているところです。

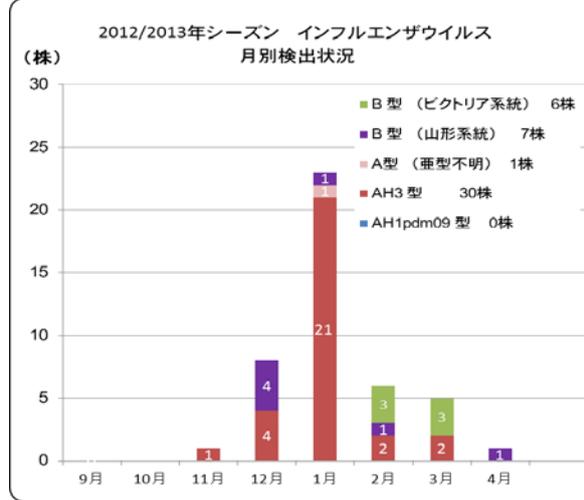
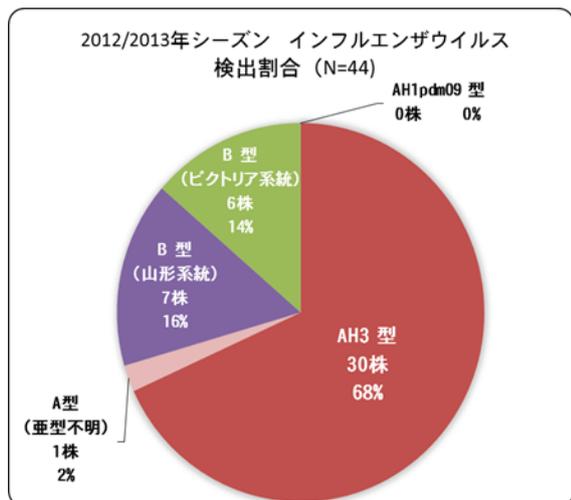
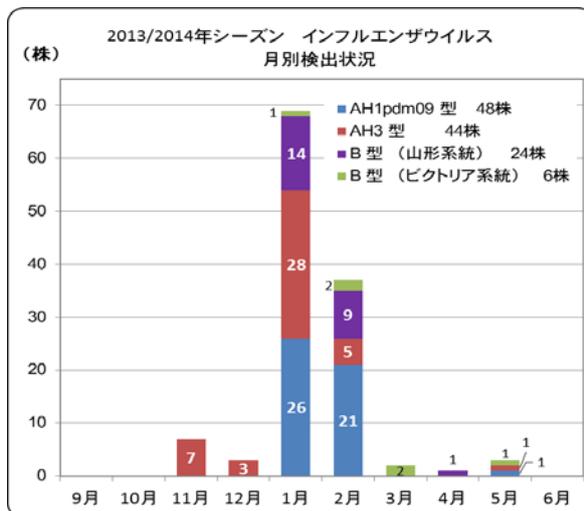
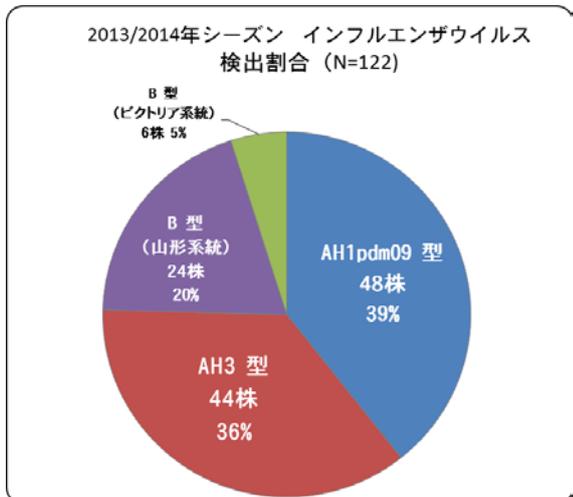
（2014年8月1日追記：国立感染症研究所において薬剤感受性試験を行った結果、オセルタミビル（タミフル）及びペラミビル（ラピアクタ）に対して耐性を示すことが確認されました。一方、ザナミビル（リレンザ）及びラニナミビル（イナビル）に対しては感受性を保持していました。）

月別検出状況は、11月及び12月にはAH3型が検出され、1月にはAH3型、AH1pdm09型、B型の順で検出割合が多くなりました。その後、2月はAH1pdm09型の割合が多くなり、3月以降は少数ながら、B型の割合が多くなりました。

全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型3363株（43%）、B型2785株（36%）（B型のうち山形系統1810株、ビクトリア系統692株、系統不明が283株）、AH3型1660株（21%）と報告されています。累計ではAH1pdm09型が最も多く検出されましたが、10週（3/3～3/9）以降は、B型、AH1pdm09型の順で検出割合が多くなりました。（2014年6月9日現在）

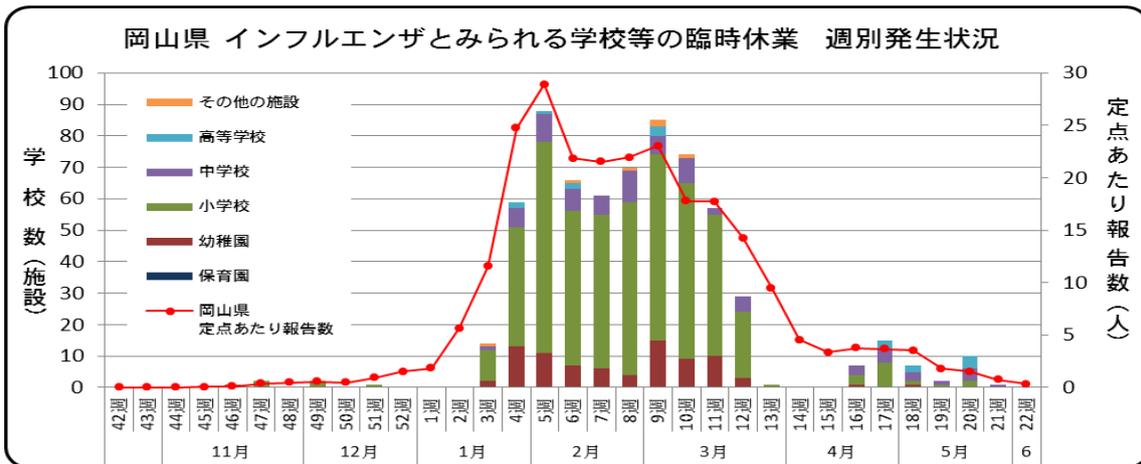
[インフルエンザウイルス分離検出状況 国立感染症研究所](#)

【2013/2014年シーズン】



【2012 / 2013 年シーズン】

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数



今シーズン 2013 のインフルエンザとみられる臨時休業は 652 施設で、昨シーズン (578 施設) より増加しました。施設別では、幼稚園 83 施設、小学校 470 施設、中学校 76 施設、高等学校 17 施設、その他 6 施設でした。初発は 2013 年 11 月 13 日 (46 週) で、昨シーズン (11 月 6 日) より遅い報告となり、今シーズンのピークには 1 週間に 88 施設の報告がありました。

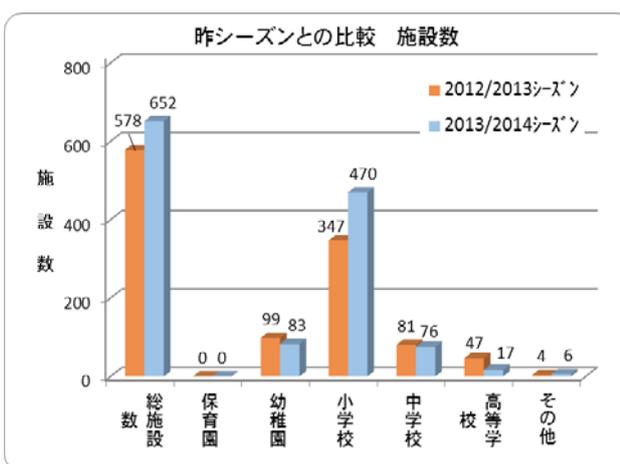
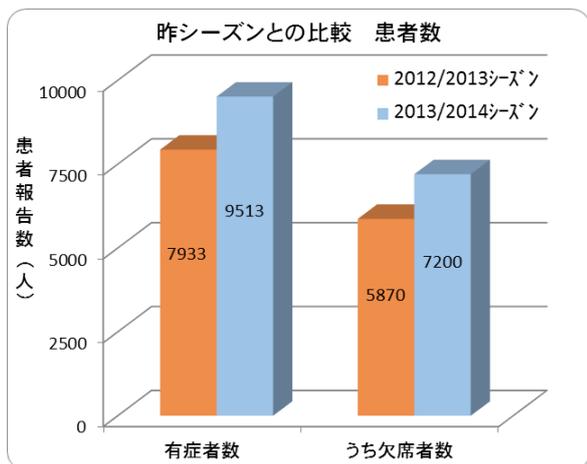
1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

| 地域名* | 有症者数 | うち欠席者数 | 施設数合計 | 休園・休校数 | 学年閉鎖 | 学級閉鎖 | 初発年月日 |
|--------------|-------------|-------------|------------|-----------|------------|------------|--------------------|
| 岡山県全体 | 9513 | 7200 | 652 | 18 | 181 | 453 | H 24. 11. 6 |
| 岡山市 | 3874 | 2811 | 233 | 3 | 35 | 195 | H24. 11. 6 |
| 倉敷市 | 1621 | 1289 | 117 | 1 | 22 | 94 | H25. 1. 15 |
| 備前地域 | 766 | 623 | 69 | 1 | 35 | 33 | H25. 1. 15 |
| 備中地域 | 1344 | 1040 | 99 | 0 | 25 | 74 | H24. 12. 12 |
| 備北地域 | 347 | 223 | 20 | 6 | 9 | 5 | H25. 1. 21 |
| 真庭地域 | 160 | 127 | 17 | 0 | 12 | 5 | H25. 1. 21 |
| 美作地域 | 1401 | 1087 | 97 | 7 | 43 | 47 | H25. 1. 15 |

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳 累計：652 施設

| | 保育所 | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | その他 |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 施設数 | — | 83 | 470 | 76 | 17 | 6 |



5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5 医療機関による報告)

今シーズンにおけるインフルエンザによる入院患者数は、68 名であり、昨シーズン (99 名) より減少しました。年齢別では9歳以下 (53%) と、60歳以上 (37%) が多くを占めました。週別では、第4週に入院患者数が最も多くなりました。

【2013 / 2014 年シーズンにインフルエンザにより入院した患者の累計数】

| 年 齢 | 1歳未満 | 1～4歳 | 5～9歳 | 10～14歳 | 15～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70～79歳 | 80歳以上 | 計* |
|-----------------|------|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|----|
| 入院患者数 | 3 | 20 | 13 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 7 | 8 | 10 | 68 |
| ICU入室 | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 2 |
| 人工呼吸器の利用 | | 1 | | | | | | | | | 2 | | 3 |
| 頭部 CT 検査 (予定含) | | 3 | 1 | | | | | | 1 | | 1 | | 6 |
| 頭部 MRI 検査 (予定含) | 1 | 2 | 2 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | 8 |
| 脳波検査 (予定含) | 1 | 2 | 2 | | | | | | | | | | 5 |
| いずれにも該当せず | 2 | 16 | 10 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | 7 | 5 | 9 | 55 |

* 重複あり

